

令和 7 年度 自己評価表（年度末）

学校法人中村学園

静岡福祉医療専門学校

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 学校の教育目標

<建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

<校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

<静岡福祉医療専門学校 教育方針>

「21 世紀の医療福祉—高齢社会に対応できる福祉スペシャリスト（保育士・幼稚園教諭、社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事、訪問介護員、福祉レクリエーション・ワーカー、視能訓練士）の育成」

○介護福祉学科の学習指導方針

「共感性豊かで、専門的知識と技術に精通した介護福祉士の養成」

確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション技術・基本的人権・専門知識と技術の習得を行い、施設・在宅で生活している利用者の安全で快適な生活を援助でき、専門職としての高い倫理観を持った介護福祉士の養成を行う。

○総合福祉学科の学習指導方針

「急速な少子・高齢化が進展するなか、複雑化・多様化・高度化する福祉・介護ニーズに対応できる中核的人材として、1 年以上の実務経験を経て、高齢者、障害者、児童、生活困窮者など、福祉界全ての分野において活躍できる総合的な相談援助の力量を持つ福祉介護職を育成することを目的とする。」

○子ども心理学科の学習指導方針

「子どもたちの“こころ”と“からだ”の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切にする保育士・保育教諭・幼稚園教諭を育成」

○視能訓練士学科の学習指導方針

「生活の質・視覚の質に貢献し、自ら考え行動できる視能訓練士の養成」

視能矯正の十分な知識と技能を有し、実践力はもとより、患者を理解する深い洞察力と対人援助職としての「患者をおもいやる気持ち」、多職種と連携できる高いコミュニケーション力を有する視能訓練士を養成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【介護福祉学科】

- ①目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた介護専門職の育成に向け、教育内容を改正する。

プラン：挨拶、掃除等日常生活においての基礎が自ら行える。

自主的に介護技術をトレーニングする。

学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をする。

学生一人一人の能力を向上させる。

介護領域の SDGs を学ぶ。

- ②目 標：2025 年問題を意識して、地域のニーズに応じた介護人材を増やせるような取り組みをする。

プラン：インクルージョンの考え方を学ぶ。

外国人も日本人もお互いに個性を認め合うような授業やクラス運営を目指す。

自分たちに何ができるのか考え行動できる人材を育成する。

【総合福祉学科】

- ①目 標：目指す福祉・介護専門職像を常に意識し、なりたい自分の具現化を図るための手段を考える。

プラン：自分が目指す将来像を考え、言語化する機会をもつ。

将来像に向け、自分に必要な力、身につけたい力とその手段を明確化させる

実習、学びのたびに自分の強みに気づき、自己肯定感を高めていく。

他学年との合同授業を実施し、連携やチームビルディングについても学ぶ

- ②目 標：時代と地域のニーズに応じた総合的力量を備えた福祉・介護専門職の育成。

プラン：「何を学びとるのか」「どういった実践能力を身につけるのか」を学生が意識して学べるようにする。

実践能力を高められる実習・演習内容を行う

実習指導者や科目担当者教員と密に連絡を取り、必要に応じた個別指導を十分に行う

- ③目 標：地域貢献活動を活性化させていく。

プラン：学生が主体的に取り組めるようにする。

実習以外のゼミナール活動、ボランティア活動等のフィールドスタディの機会を増やし、プランニング力やマネジメント力も高めていく。

他学年との合同授業を実施し、連携やチームビルディングについて学ぶ。

【子ども心理学科】

- ①目 標：子どもを取り巻く環境に関心を持ち、主体性をもちながら地域と協働して子どもを育てることができる力を身につける。

プラン：職場体験、ボランティア活動、フィールドスタディから得られる生きた体験を通じて、刻々と変化する「子どもを取り巻く環境」に関心を持つ。そのうえで、自分にできることは何か、子どもにとって必要なことは何か、地域や大人同士が連携を図り子どもの環境を作るとは何かについて自ら問いを立てていきたい。

- ②目 標：子どもとともに「楽しい」と感じる教育・保育を創造する力を身につける。

プラン：大人主導ではなく、子どもの感性を大切にしながら、子どもと一緒に「楽しい時間」を創造できるような保育・教育活動を目指し、実践につなげられるようにする。

- ③目 標：保育者としてのコミュニケーション能力を身につける。

プラン：他者と良好な人間関係を築き、目的や状況に応じたコミュニケーションを図るために、表現力だけでなく、共感的傾聴力を身につけていく。

【視能訓練士学科】

- ①目 標：視能訓練士としての専門性を高めるだけでなく、患者様との円滑なコミュニケーションや医療安全を実践できる力を養う。

プラン：幼稚園での視力検査や介護福祉学科・総合福祉学科とのコラボ授業にて専門を越えた多職種連携教育を体験することで、小児や高齢者と関わる際に必要な配慮や技術を学び、臨床現場で直ちに役立つ実践力を身につける。

- ②目 標：学力面・精神面の両面で学生を支援し、安心して学び続けられる環境を整えることで、退学者を減らし、自己実現に向けて前向きに努力できる学生を育成する。

プラン：必要に応じた補講や学習方法の指導を行う。さらに、個別面談の頻度を増やして学生が悩みを抱え込まないよう支援体制を整える。ポートフォリオ作成を通じて将来像を具体的に描けるよう導く。

- ③目 標：早期から段階的に学習意欲と理解度を高め、一人でも多くの学生が国家試験に合格できるよう支援する。

プラン：1年次からの模擬試験、解答解説作成、オリジナル模擬試験、弱点对策補講、eラーニングを活用することで全員合格を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

【介護福祉学科】

①目 標：

- ・時代と地域のニーズは介護人材を増やすということが最大目標である。入学して来られた学生の資質はまちまちではあるが、2年生においては退学者を出さず、どんなレベルであっても柔軟に就職活動をして目標を達成できた。1年生においては前期より掃除や自主性が改善されたが、退学者2名出している。今後も総合的力量を伸ばし、挨拶、掃除等日常生活における基礎やマナーを身に付け、自ら考えて行動できるような指導を継続する。
- ・学生一人一人のバックボーンを理解し、個別対応をするなど、個人の能力を向上させるような細かい指導をしているが、学生全般的に能力的な課題が多く、保護者に来校していただき、相談しながら家族の協力を得て、個別の指導方法を考えて行ってきた。

②目 標：

- ・台湾の研修修学旅行もグローバル的に大きな成果であった。外国人留学生と日本人学生が学びあい高めあい、学生が主体的に取り組めるよう、学内外のコラボレーションのあり方を今後も整備していく。
- ・2025年問題を意識化させ、授業等で福祉の基本理念を学び、自らがインクルージョンの考えを取り入れた生活ができるよう促している。
- ・1年生の実習報告会を2年生も聞いて、アドバイスでき、双方によかった。
- ・「介護領域のSDGsとは」を調べ学習した。SDGs（持続可能な開発目標）は2030年までの目標であり、その先（ポスト2030）に向けては、「負の遺産を残さない（サステナビリティ）」という段階から、「正の価値を創り出す（ポジティブ・インパクト）」という考え方へと発展・転換しつつあることを見据えた教育をしたいところだが、現実的に目先のことで精一杯の学生が多いレベルである。学生の格差を考えた個別の教育が必要である。
- ・看護学生とのコラボ授業を通して、介護福祉士のアイデンティティとは何かを自覚することができた。ここぞという時に力を発揮できる学生もいることは嬉しい。

【総合福祉学科】

- ①目標：自分の目指す福祉・介護専門職像を学年が上がるにつれ、より明確化できるよう、各自の具体的な目標設定を行った。言語化する機会として、実習報告会・フィールドスタディ報告会等プレゼンテーションの場を複数回設定した。他学年の報告会に参加することにより、学びの見える化と将来像のイメージづけができた。他学年との合同授業は、グループワークや相談会等で話し合う場を増やすことで相乗効果が得られるものとなった。
- ②目標：上級生の報告会を聞いて、「足りない所」「出来ている所」「さらに伸ばす所」を振り返ることに力を入れた。1年生は、具体的に何を身につけていく必要があるのか、自主的にクラスで話し合っており、意識して学ぶ姿勢がみられた。また、介護実習、ソーシ

ャルワーク実習において、実習指導者、担任、巡回教員との連携体制を整えながら、個別指導を十分に行うことができた。

- ③目標：1年次にボランティア活動への参加、2年次に運営にも携わり、3年次には企画から運営までこなせるようにする、という流れになるように活動内容が充実されてきた。各学年、N-Cap生を中心に地域の団体・企業と連携して活動の実施が行えるよう幅も広がった。

【子ども心理学科】

- ①目標：3学年通してフィールドスタディへの積極的な参加を進めている。

1年生は、科目「地域ボランティア」にて、学校からの紹介も含めたボランティア活動へ参加した。2年生は、科目「ゼミナールⅠ」を通じて、「子ども」に関するテーマを掲げ、図書館、障害児支援施設、社会的養護施設、実習園などへの訪問を通じ探究活動を行った。3年生は、専攻（児童心理・養護、幼児体育、こどもとあそび、小児栄養・食育）に分かれて、自ら設定したテーマに沿った探究活動を進め、卒業研究発表会を行った。

- ②目標：子どもたち自らが「やってみたい」という思いを引き出せるような保育実践を行うために、計画・実践・検討を繰り返す。教員主導ではなく学生中心に検討を重ねることで、学生個々には気づきにくい価値を体得することができる。子どもの表現や保育実践の授業を3学年通じて段階的に取り入れている。また、学内保育所にも実践の協力をお願いしている。

- ③目標：科目「社会人基礎学」「礼法・茶華道」受講後の振り返り、および各科目におけるコミュニケーションスキル習得のための授業内容を取り入れている。普段の生活から、友人、教員、外部活動などで柔軟なコミュニケーションが図れるよう指導している。学生によっては、時間のかかる者もいるが、教員も状況に応じたコミュニケーションを学生と図るようにしている。

【視能訓練士学科】

- ①目標：幼稚園での視力検査は小児と関わる良い機会となっている。介護福祉学科・総合福祉学科とのコラボでは多職種連携を体験し、自分の目指す職種説明や疾患（緑内障・白内障）・検査の説明を行うことで、コミュニケーション力向上だけではなく、各自の自信につながったように思う。特に「自分自身が目指す職種（視能訓練士）」について他者に説明することで、各自が「将来なりたい姿」を明確にできたと考える。学生からは、他学科から介助技術のレクチャーを受けることで安心して臨地実習に臨むことができたとの声が聞かれた。引き続きこのような機会を設けていきたい。

- ②目標：理解度に応じて個別補講や勉強方法の指導を実施した。1年生はポートフォリオを作成することで自分自身の目標とそのために何が必要となるかを言語化し、加えて日々の成長を可視化することで学生のモチベーションに繋げ、結果として退学者をゼロに

抑えることができた。2年生では30分補講や朝補講を導入し、専門性の高い学習への不安軽減を図り、安心して学べる環境を整えた。

- ③目標：模擬試験では、国家試験過去問題だけではなくオリジナル問題を出題することで、要点をしっかり理解させるようにした。また、1対1での口頭試問や国家試験前日までeラーニングを行うことで、ポイントの確認とアウトプットの機会を設けるようにしてきた。また、学力面・精神面の両面から継続的な支援を行うために、細目な面談や声掛けを意識してきた。結果、国家試験当日には全員が実力を発揮できたと思う。

評価方法は、以下の通りである。

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

介護福祉学科

- ・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。

総合福祉学科

- ・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作ることではできたが、その機会を上手く活かせる学生となかなか難しい学生とで差が広がってしまう。

子ども心理学科

- ・本学の「見学の精神」「校訓」「教育・学習指導方針」に則った指導を教員が意識化できているのか。また、「挨拶励行」が徹底されているのか。教員側から声をかけないと返事がない学生が増えてきている。

視能訓練士学科

- ・医療人としての確固たる基準を持ち、それを指針として物事を考え、決定できる人材を育てていきたい。

・「新しいことに挑戦し続ける力」と「現代社会の変化」に気づける敏感さ、それに「柔軟に対応する力」を育てていきたい。
②今後の改善方策 介護福祉学科 ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。 ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。 総合福祉学科 ・まずは、学内の中で言語化する機会、人と関わる機会を増やしていきたい。 子ども心理学科 ・教員自身が「見学の精神」「校訓」「教育・学習指導方針」を意識化し、学生指導の根幹とする。 ・挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、他者の存在を認める行為であるという意識をもてるよう、来年度も継続して声をかけていきたい。 視能訓練士学科 ・実際の臨床事例を活用したケーススタディおよびロールプレイングを継続的に実施する。さらに、振り返りとディスカッションの時間を設け、学びや判断根拠を言語化させることで、医療人としての判断基準の確立と、変化に対応できる思考力を定着させていきたい。
③特記事項 ・特になし

(2) 学校運営

評 価 項 目	評 価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題
②今後の改善方策
③特記事項

(3) 教育活動

評 価 項 目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題 介護福祉学科：

・日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、有意義に時間を活用できるように指導していく。(放課後等居残り勉強等) ・外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。 総合福祉学科 ・学習の評価基準をより明確化していく。 ・各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ機会を作りたい。 ・様々な分野の福祉専門職を招いて、今の福祉のニーズをについて学ぶ機会確保のため、特別講座の形で実施できた。(保護観察所、静岡 DWAT) 子ども心理学科 ・教員の能力開発のための研修として ICT に関する研修に取り組む必要を感じている。 視能訓練士学科 ・教員経験のない、あるいは経験の浅い教員が増えていることから、指導力および授業運営能力の向上が課題となっている。
②今後の改善方策 介護福祉学科 ・有意義に時間を活用できるように指導していく。(放課後等居残り勉強等) 総合福祉学科 ・各科目においてルーブリックにおける評価基準を行っていく。 ・ICT の活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。 ・実習施設や実習指導者との連携を密にしながら、実習以外のフィールドスタディでも様々な機会を学生に提供できるよう、教員は関係構築を継続して行っていく。 子ども心理学科 ・学科内の教員認識として、ICT に対するアンテナは高まった。来年度も継続的に、スキルを向上させていく。学内研修も依頼する。 視能訓練士 ・外部研修・教員研修で習得した内容を引き続き学科内で共有し、教育力の向上につなげる。 ・定期的に、指導方法や授業運営について意見交換を行う機会を設ける。
③特記事項 ・特になし

(4) 学修成果

評 価 項 目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

①課題

介護福祉学科

- ・今年度は1年生が2名退学。
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。

総合福祉学科

- ・精神的不安のほか、経済的理由により今年度退学者がでてしまった。
- ・卒業生の現場での活躍や本校での学びが活かされている話を巡回時に聞かせていただいている。つながりのある成長する姿を広報にも活かしていきたい。
- ・卒業後の資格取得状況、社会福祉士受験状況についてなかなか情報が集まらない。

子ども心理学科

- ・学生の中には、様々な事情を抱えている者がいる。特別な配慮が必要な学生に対する個々の支援が求められる中で、どこまで学生に寄り添った支援が学校として必要なのか判断に迷うことが多い。

視能訓練士学科

- ・年々、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

②今後の改善方策

介護福祉学科

- ・退学者2名とも精神疾患を抱えていたため、入学時の見定めも慎重さが必要と感じている。
- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。

総合福祉学科

- ・今後も継続して、個別面談や個別指導により細かな面まで支援していく必要がある。

・介護福祉士国家試験の合格率100%を継続できるよう、試験対策を個別にも実施していく。 ・現在作成している介護福祉士国試対策問題ツール（WEB）の社会福祉士版の作成も行い、卒業生が活用できるものとした。 子ども心理学科 ・学科内での教員間の共通理解が非常に重要。学校としての機能や役割を時代に併せてどう捉えていくのか、教員により考えが異なってくると不協和音が生じる。指導方針に対する考え方に関してはコンセンサスを図るための話し合いを継続的に行う必要がある。 視能訓練士学科 ・専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。 ・自分に合った効果的な「学び方」の授業を行い、成績不良が原因の退学を予防する。 ・入学前から学校に対する帰属意識を高めることと学校を安心・安全な場とする。 ・ポートフォリオ作成や他学科とのコラボ授業を通して将来像を明確化し、言語化することで、モチベーションの維持につなげる。
③特記事項 ・特になし

（５）学生支援

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題 介護福祉学科・総合福祉学科： ・関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。 ・中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。

・学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。 ・経済的支援で前期が学生に負担が大きい。 ・精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。 総合福祉学科 ・精神的な問題、経済的な問題に加え学生個々の問題が複雑化しているケースもあり、教員の負担も増えてきている。 子ども心理学科 ・生活管理能力が低い学生に対する支援が難しい。個別相談はかなり行っているが、改善がみられない、効果を感じないことも多い。 視能訓練士学科 ・健康上の問題（精神的・身体的）を抱えている学生がおり、実習施設当て込みの際の配慮が必要。
②今後の改善方策 介護福祉学科 ・保護者との連携を強化する。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。 ・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。 ・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。 ・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。 ・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。 総合福祉学科 ・担任だけでなく、学科内での情報共有、フォロー体制を強化し、できる範囲での手厚い支援を継続してくが、保護者の過度な期待には応えられないことも理解していただく必要がある。 ・今後も継続して、社会人向け講座（介護入門研修）を実施していく。 子ども心理学科 ・担任だけが課題を抱えることの無いよう、教員相互に情報共有を行い、組織的なフォロー体制を構築していく。 視能訓練士学科 ・保護者と密な連携を図るとともに、臨地実習の円滑な継続に向けても実習施設の理解と協力を得ながら、継続的に連携体制を構築していく必要がある。
③特記事項

・特になし

(6) 教育環境

評 価 項 目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題 子ども心理学科 ・教育環境のデジタル化（教育 DX）に向けて、学習環境の整備と教員自身の教育 DX に対するスキルアップが課題となっている。
② 今後の改善方策 子ども心理学科 ・学習環境の整備として ICT 環境の充実 ・教員の資質・能力向上として、研修への参加や課題意識をもつこと。
③特記事項 視能訓練士学科 ・カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となり、今年度「私立学校教育環境整備事業費補助金」を利用して機器を購入した。また、クリニックより使用しなくなった機器を寄付していただいた。 共通 ・学校行事である海外研修修学旅行については、今年度も、「台湾研修修学旅行」を実施した。(12/8～12/11)

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	2

①課題 介護福祉学科 ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。 ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。
--

- ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。
- ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。(海外等)

総合福祉学科

- ・SNSの活用、チラシの作成等情報発信を行っているが、伸び悩んでいる。オープンキャンパスに参加したうちの入学者の割合は高いが、そもそものオープンキャンパス参加者が減っているため、まずは来ていただくための広報が必要である。フィールドスタディ活動をうまく学生募集につなげていきたい。
- ・企画広報と学科教員との連携が必要である。

子ども心理学科

- ・学生人口が減少している中で、県内に競合校が多く、各校の定員充足率も減少してきているため、学生募集が苦戦し続けている。

視能訓練士学科

- ・SNSを頻繁に更新するとともに、資料請求者には手書きメッセージを同封するなどしてきたが、いまだ視能訓練士の知名度が低く定員充足には至っていない。

②今後の改善方策

介護福祉学科

- ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。
- ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいいため、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。
- ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。
- ・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確立する。
- ・入学時、入学金を払えない留学生が多いので、本学の奨学金制度の見直しを検討していただいている。

総合福祉学科

- ・企画広報と連携し、高校への出前出張の講座を増やしていく。
- ・本学の学生と一緒に高校生が参加できるボランティア活動を企画し、福祉と学校のこと両方が知れる機会を提供していきたい。

子ども心理学科

- ・学生募集活動については、広報と協働しながら、SNSでの情報発信を行っている。また、本学と競合校との差異化を意識した教育活動を行っているが、それが外部に発信できているか、評価につながっているか検証する必要がある。
- ・学科内で参加者が楽しめる企画を考え、次年度のオープンキャンパスで実施したい。

視能訓練士学科

- ・引き続き、実習巡回の際に、各施設に視能訓練士啓蒙のためにポスターやリーフレットの配布を行う。

・眼科医会の協力を得て視能訓練士の知名度を上げていく。

③特記事項

・特になし

(8) 財務

評 価 項 目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

②今後の改善方策

③特記事項

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題

・個人情報保護の理解と周知徹底を図る。

②今後の改善方策

・法令順守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。

・SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を身体的に周知する。

③特記事項

・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題

総合福祉学科

- ・ボランティア活動や研究活動において関わった事業所や機関より、今後も継続して活動をしていきたいと思いますとお声かけいただけており、継続して広げていきたい。
- ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。

視能訓練士学科

- ・視能訓練士の啓蒙および職業意識の向上につながるボランティア活動を実施したい。

今後の改善方策

総合福祉学科

- ・介護入門研修を施設の新人研修の一つとして位置付けてくださる施設が増え、毎回参加人数が確保できている状況である。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。

視能訓練士

- ・使用済み眼鏡をアフリカへ提供する国際支援活動を通じて、視覚医療に携わる専門職としての使命感や職業意識を高める教育的効果が得られたと思う。

特記事項

- ・特になし

(11) 国際交流

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

①課題 介護福祉学科 ・日本人だけでは介護人材を増やすことができない。
②今後の改善方策 介護福祉学科 ・人脈を活かして、日本語学校と法人との協力体制を強化し、外国からのルートを確立する。 ・入学時、入学金を払えない留学生が多いので、本学の奨学金制度の見直しを検討していただいてる。併せて、県からの支援が増えるように働きかける。
③特記事項 ・特になし

以上